

令和元年12月4日

厚生労働大臣

加藤 勝信 殿

公益社団法人 日本小児科学会

会長 高橋 孝雄



公益社団法人 日本小児科医会

会長 神川 晃



異なるワクチンの接種間隔変更に関する要望書

わが国では、異なるワクチンの接種間隔は、生ワクチン接種後は27日以上、不活化ワクチン接種後は6日以上空けるように定められている。

注射生ワクチン同士の接種では、理論的に起こり得る干渉現象を回避するために、同時接種でない場合は27日間以上の接種間隔が必要と考えられている。一方、不活化ワクチンや経口生ワクチン接種後のすべての種類の異なるワクチン接種、あるいは注射生ワクチン接種後の不活化ワクチンや経口生ワクチン接種については、接種間隔を置かなければならぬ特段の科学的根拠は見当たらない。

米国や英国をはじめとする海外のほとんどの国においては、注射生ワクチン同士の接種間隔には規制を設けているが、他の接種間隔には規制を設けていない（表）。この問題点については、2012年9月19日に日本小児科学会から「異なるワクチンの接種間隔変更に関する要望書」を当時の小宮山洋子厚生労働大臣宛に既に提出済みである。

平成29年度予防接種に関する間違い報告がまとめられた。延べ接種回数46,317,825回のうち、間違いとして報告のあった件数は7,787件（10万回接種あたり16.81件）であった。間違いの態様別では、接種間隔の間違いが最も多く間違い全体の51.7%を占めたと報告されている。間違い報告の中で、健康被害が生じたものとして35件が報告されたが、いずれの報告も発熱や接種部位の発赤・腫脹などであり、重大な健康被害に繋がる間違いはなかった¹⁾。

沈降精製百日せきジフテリア破傷風不活化ポリオ混合ワクチン、乾燥ヘモフィルスb型ワクチン、沈降13価肺炎球菌結合型ワクチン、組換え沈降B型肝炎ワクチン、経口弱毒生口タウイルスワクチンなど乳児期に接種すべきワクチンは増加しているが、同時接種を基本としたとしても、現状の接種間隔の規定により、適切な時期に適切な数のワクチン接種が行いにくい状況となっている。

以上より、異なるワクチンの接種間隔について、次のように改訂することを改めて要望する。

（1）乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン、乾燥弱毒生麻しんワクチン、乾燥弱毒生

- 風しんワクチン、乾燥弱毒生水痘ワクチン、乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン、乾燥BCGワクチンなど注射生ワクチンを接種した日から、
- 1) 次の異なる注射生ワクチン接種を行うまでの間隔は27日以上置くこと。
 - 2) 次の不活化ワクチンや経口生ワクチン接種を行うまでの間隔は制限しないこと。
- (2) 沈降精製百日せきジフテリア破傷風不活化ポリオ混合ワクチン、乾燥ヘモフィルス b 型ワクチン、沈降13価肺炎球菌結合型ワクチン、組換え沈降B型肝炎ワクチン、乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン、沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド、組換え沈降ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン、インフルエンザHAワクチンなど不活化ワクチンを接種した日から、次のすべての種類の異なるワクチン接種を行うまでの間隔は制限しないこと。
- (3) 経口弱毒生ロタウイルスワクチンなど経口生ワクチンを接種した日から、次のすべての種類の異なるワクチン接種を行うまでの間隔は制限しないこと。

参考文献

- 1) 予防接種施策の現状について:第32回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会 資料2-1(令和元年8月7日)
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisaku-ja/10906000/000535717.pdf>

国名	不活化ワクチン不活化ワクチン生ワクチン生ワクチン不活化ワクチン 不活化ワクチンが、異なる不活化ワクチンまたは生ワクチンに対する免疫応答を妨げる 工ビデシスはない。全ての不活化ワクチンは、同時に、または異なる不活化ワクチン、 または、生ワクチンの前後で、いつでも接種が可能である。【訳者追記：PCV13と MCV4-0(メナクトラ)は例外として4週間以上あける】	生ワクチン生ワクチン 干渉するためには、同時に、または異なる不活化ワクチン、 または、生ワクチンの前後で、いつでも接種するべきである。	経口生ワクチン 干渉するためには、同時に、または異なる不活化ワクチン、 または、生ワクチンの前後で、いつでも接種するべきである。	文献 1)
米国	2種類の不活化ワクチン、または生ワクチンと不活化ワクチンによる異なる全ての組み合せは、互いの前後でいつでも接種が可能である。【訳者追記：PCV13とMCV4-0(メナクトラ)は例外として4週間以上あける】	同時接種がなされたかつた非経口（注射）生ワクチン（MMR、MRV、水痘、帯状疱疹、帯状疱疹、黄熱）と弱毒生ワクチン（MMR、MRV、水痘、帯状疱疹インフルエンザワクチン）は、4週間以内に接種されるべきである。	腸チフス（Ty21a）やロタウイルスなどの経口（弱毒生ワクチンは、必要に応じて、同時に、または異なる注射、または経口生ワクチンに、または経口生ワクチンの前後にいつでも接種が可能である。	腸チフス（Ty21a）やロタウイルスなどは、必要に応じて、同時に、または異なる注射、または経口生ワクチンに、または経口生ワクチンの前後にいつでも接種が可能である。
英国	異なる不活化ワクチンの接種は、不活化ワクチンの接種は、生ワクチンの前後、または互いの前後または同時に、いつでも接種が可能であり、その逆（生ワクチンは、互いの前後でも接種が可能である。	不活化ワクチンは、生ワクチンの接種は、生ワクチンの前後、または互いの前後でも接種が可能である。	非経口生ワクチン（MMR、MRV、水痘、帯状疱疹、黄熱）と弱毒生ワクチン（MMR、MRV、水痘、帯状疱疹、黄熱）は、経口接種された生ワクチン（経口生ワクチンは、4週間以内に接種されると、経口ロタウイルス、経口ロタウイルス）に影響を与えることは考えられない。経口生ワクチンは非経口生ワクチンまたは弱毒生ワクチン非ワクチンの前後でいつでも接種が可能である。	非経口生ワクチン（MMR、MRV、水痘、帯状疱疹、黄熱）と弱毒生ワクチン（MMR、MRV、水痘、帯状疱疹、黄熱）は、経口接種された生ワクチン（経口生ワクチンは、4週間以内に接種されると、経口ロタウイルス、経口ロタウイルス）に影響を与えることは考えられない。経口生ワクチン非ワクチンの前後でいつでも接種が可能である。
カナダ	不活化ワクチンは、他の不活化ワクチン、または生ワクチンと同時に、またはその後に接種が可能である。	不活化ワクチンは、他の不活化ワクチン、または生ワクチンと同時に、またはその後に接種が可能である。	現在使用されている全ての生ワクチン（BCG、ロタウイルス、弱毒生インフルエンザワクチンLLA/I）、経口腸チフスワクチン、黄熱、水痘、帯状疱疹、MMR、上記の組み合わせを除き、これらのワクチンは、互いの前後でいつでも接種が可能である。	現在使用されている全ての生ワクチン（BCG、ロタウイルス、弱毒生インフルエンザワクチンLLA/I）、経口腸チフスワクチン、黄熱、水痘、帯状疱疹、MMR、上記の組み合わせを除き、これらのワクチンは、互いの前後でいつでも接種が可能である。
ドイツ	不活化ワクチンは、他の不活化ワクチン、または生ワクチンと同時に、またはその後に接種が可能である。	不活化ワクチンは、他の不活化ワクチン、または生ワクチンと同時に、またはその後に接種が可能である。	生ワクチンは同時接種が可能である。腸チフスは、2種類の生ワクチンを除き、次の非経口生ワクチン接種まで最低4週間あける必要がある。	生ワクチンは同時接種が可能である。腸チフスは、2種類の生ワクチンを除き、次の非経口生ワクチン接種まで最低4週間あける必要がある。
オーストラリア			状況によっては、弱毒生ウイルス非経口ワクチン接種を4週間以内に弱毒生ウイルス非経口ワクチン接種した場合、またはBCGを接種した場合。 弱毒生ウイルス非経口ワクチンによる免疫応答は、4週間以内に後から接種された生ウイルスワクチンの免疫応答を妨げ得る可能性があるため。	状況によっては、弱毒生ウイルス非経口ワクチン接種を4週間以内に弱毒生ウイルス非経口ワクチン接種した場合、またはBCGを接種した場合。 弱毒生ウイルス非経口ワクチンによる免疫応答は、4週間以内に後から接種された生ウイルスワクチンの免疫応答を妨げ得る可能性があるため。

文献

- MMR Recomm Rep. 2011 Jan 28;60 (2):1-64. Erratum in: MMR Recomm Rep. 2011 Jul 29;60:93. PMID: 21293327
- CDC. Pink book 2015 p12
- UK. Green book chapter 11. https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/795467/Greenbook_chapter_11.pdf
- Canadian Immunization Guide. Page 10 : Canadian Immunization Guide : Part 1 - Key Immunization Information <https://www.canada.ca/en/public-health/services/publications/health-canadian-immunization-guide-part-1-key-immunization-information-administration.html>
- Recommendations of the Standing Committee on Vaccination/Recommendations/Vaccination/infections/administrations/34_2017_eng.pdf?blob=publicationFile
- The Australian Immunisation Handbook. <https://immunisationhandbook.health.gov.au/vaccination-procedures/preparing-for-vaccination>